清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」第２回助成決定にあたって

（赤い羽根福祉基金プログラム）

2023 年 10 月 3 日

1.応募状況の概要

〇清水育英会×中央共同募金会　「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」第 2 回への応募状況は、60 件（8,890 万円）でした。

〇応募した団体の所在地は、神奈川県が 7 件、鹿児島県が 5 件、北海道・宮城県・京都府が 4 件、新潟県・静岡県・愛知県・大分県が 3 件、福島県・埼玉県・滋賀県・兵庫県・佐賀県・熊本県・沖縄県が 2 件、岩手県・秋田県・群馬県・山梨県・三重県・岐阜県・大阪府・岡山県・香川県・長崎県が 1 件でした。

〇応募した団体の法人種別は、NPO 法人が 38、任意団体が 12、一般社団法人が 7、一般財団法人が 1、社会福祉法人が 1、その他が 1 でした。

2.助成決定の概要

〇応募いただいた団体の審査を行った結果、21 団体、総額 2,503 万円の助成を決定しました。総額のうち、助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」は 17 団体・1,525 万円、助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」は 4 団体・978 万円の決定となります。

〇財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や緊急性が高い活動、また確実に効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを決定いたしました。

3.助成決定にあたって　（審査委員長コメント）

本助成は、一般財団法人清水育英会からの資金を原資に、清水育英会と中央共同募金会の共同助成として、新型感染症の長期化や物価高騰等の影響により、経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもたちの学習と生活を一体的に応援することを目的として実施いたしました。

応募書から、困窮または孤立の傾向にある子どもたちへの支援の必要性だけではなく、経済的困難などの家庭環境などにより授業についていけない子どもや学校生活になじめず孤立しがちな子どもたちへの支援の必要性も高まっていることを実感いたしました。また子ども達のより良い未来のために、提供するプログラムや円滑で効果的な活動となるよう工夫を凝らして活動されている方たちがこんなにも多くいることに大変喜ばしく思います。

助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」では、ボランティア主体で子どもの支援活動を丁寧に継続している団体による子ども食堂や食糧配布などの食支援や居場所活動と連携した学習支援活動、就労支援事業や高齢者福祉事業を行っている団体がこれらの支援活動の延長から食支援や学習支援へと広がった活動、教科学習のほかに生活や就労に役立つ料理や家具の修理・不用品の解体などの作業体験、英語やプログラミング学習、農作業体験など、子どもの職業選択の幅を広げる様々な体験に取り組む活動、社会福祉協議会の関わりから地域の子ども食堂やお店の協力を得て学習支援を含む子ども支援の場を広げていき地域に理解者や賛同者を増やしていく活動など多彩な活動がみられました。

また助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」では、地域に散在集住する外国ルーツの子どもたちに対するオンラインによる日本語学習支援や連携機関にオンライン学習のノウハウ共有することで支援の拡充を目指す活動や、ひきこもり支援団体と協力しひきこもり状態にある外国ルーツの子どもたちへのオンライン日本語学習を、その団体の支援員が実施できるように教材作成を行い活用方法を他団体へ広める活動などが採択となりました。

一方で、活動そのものは意義あることでありながら、助成財源の関係から残念ながら採択できなかった活動も多数ありました。不採択となった応募の理由をいくつか記載いたします。次回以降の応募に際して参考になれば幸いです。

助成プログラム①は、学習支援の要素がほぼ見られない、もしくは読み取れない応募、学習支援ではなくその他の活動が主体であると読み取れる応募が不採択となっています。

助成プログラム②は、多機関連携・協働やその意義、連携・協働による新しい価値創造の要素がほぼ見られない、もしくは読み取れない応募が不採択となっています。一例として、多機関連携・協働が情報提供や情報共有にとどまっている応募がありました。

また応募全体としては前回同様に、支援ニーズや課題に対し具体的にどのように対応し解決していくのか、その詳細な活動内容や、なぜその経費が必要となるのかについて、具体的な内容が不明、または十分に読み取れない応募が不採択となっています。連携先の記載が全くない応募も見られました。

応募する活動内容などが読み手に伝わるようしっかりと言語化していただくことを期待いたします。

　困窮し孤立する子どもや親の困りごととその背景は多様化しています。地域の多様な支援組織と連携しつながりを増やすことで、多くの子ども達に手を差し伸べる活動が広がり、子ども達一人ひとりの未来が輝かしいものになることを願っております。

清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」審査委員会
委員長　　松　原　康　雄